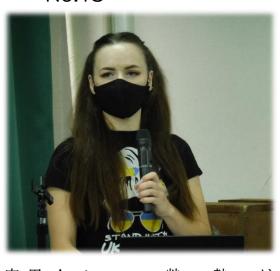
を語ってくれました。生徒たち さんは気丈に祖国への熱い思い 国の歴史的背景など、キツィラ シアの軍事侵攻による現状、両

ウクライナ出身

令和四年度第一 回国際理解教育講座開催! キツィラさんによる



は、 熱心に耳を傾けていました。 い惨状に衝撃を受けながらも 参加生徒による感想(一部抜)を紹介します。 実際に今起きている生々

きれない死傷者が出ている事に 襲を受け、街が破壊され、数え 惨な状況である事を知った。 れている以上にウクライナが凄 状を知ると、メディアで報じら 実際ウクライナ出身の方から現 界を震撼させるニュースだが、 くさんのことを学んだ。現在世 私は言葉を失った。 ィラさんの講演をお聞きし、 ロクソリャーナ・キツ 一年六組 寺井

ライナのリビウ出身で由良町在

十月十二日(水)放課後、

ウク

住のロクソリャーナ・キツィラ

イナの文化やくらし、そしてロ

育講座を開催しました。ウクラ

さんを講師に招き、

国際理解教

事だ。キツィラさんのおばあさ がロシアから侵攻を受けていた 在だけでなく昔からウクライナ んが若い時、 最も心に残っているのは、 ロシアの人々がウ

えた。

をしたことを忘れてはならない。 強く願う。 る。そして、日本も過去に戦争 する事が平和への第一歩に繋が うに、ウクライナの現状を理解 国際社会がより良くなることを 一日でも早く平和を取り戻し、 キツィラさんが言っていたよ



取り扱われることが少なくなっ ウクライナについてニュースで ラさんのご家族が撮影された動 たように感じる。しかしキツィ 画を見て、ずっと命の危険を感 最近日本では戦争の長期化で、 年六組 早田

そうだ。ロシア人はウクライナ

人を殺す目的だった。その事実

べ物があればすぐ奪っていった クライナ人の家に押し入り、

をお聞きした時、

私は恐怖を覚

痛感した。そしてウクライナで じながら生きている人がいると は正気を保つために冗談を言い 家族を失った犬の写真やミサイ 合うと知り、とても心が痛んだ。

ル攻撃により水や電気が止まり

No.13 正しい情報の拡散など私たちが やっていた。 という現実が、 連絡を取り合うことができない び戦争が起こらないように、次 も想像以上で、 できることをし、ウクライナへ 語が生活に紛れ込んでいるのが 重要になってくると思った。 の関心を持ち続けることが今後 大切だとキツィラさんはおっし の世代に語り継いでいくことが いうのは非常に驚いた。また再 は理解できなかったが、 感した。また、「言語は文化をつ くる」という言葉の意味を最初 そこからすべて失うと 募金やネットでの 意識の低さを実 私にはあまりに ロシア

たちはどれだけつらいかと思っ が破壊されて、ウクライナの人 の飛行機ムリアなど様々なもの 景色、街、文化、「夢」という名 はいけないものだと感じた。 クライナの人が大切にしてきた 今回の話を聞いて改めて戦争 話の中で特に強く感じたこ 自国も他国も大切にする 口口 ゥ

> とだ。 を守るこ にもなる を守る力 うとき国 くことが、 知ってお のことを とや自国 というこ いざとい 国の言語

取り戻してほしい。 ライナができるだけ早く平和を 要で大切なのだと学んだ。ウク とも話されていたので、他国を また、各国の支援がありがたい という新しい考え方が広がった。 大切に思って支援することは必

何か隠していないか探されたり、 ソビエト軍の人に家に入られて ト連邦時代にもウクライナは、 した。一番驚いたのは、 ナへの思いが強く伝わってきま 日本語で話してくれ、ウクライ いて本当につらいのに頑張って 母国がロシアの攻撃を受けて 二年四組 畑崎 ソビエ

> なかったということです。 えなかったりしていて、 働いても一握りの小麦しかもら に、今の写真ではもう黒く焼け 美しくて素敵な街並みだったの ることをしたいと思います。 イナに早く平和が戻ってきてほ の怖さを痛感しました。 てボロボロになっていて、 ライナはいろんな都市の建物が しいです。そして私も何かでき イナがしんどいのは今だけでは ウクラ ウクラ ウク

事が二度と ように、 の世代へと 起こらない 次

いくことが 方を伝えて 教訓や考え

う。

大切だと思

られないだろうと感じた。こう もそういったイデオロギーの違 る考えがあるのは当然だと思っ いでまた紛争が起こるのは避け たし、対面的に統合したとして 捉え方も違い、民族的にも価値 観が異なっているので、反発す 言語が違って同じものに対する ウクライナとロシアは、 三年六組 出口 健太 使用

いった出来

(G)